

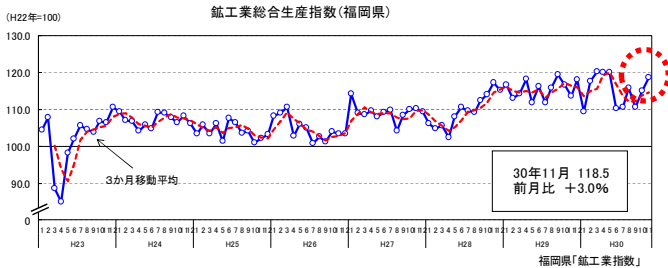
ふくおかの経済

平成31年1月号



生産 高水準で推移

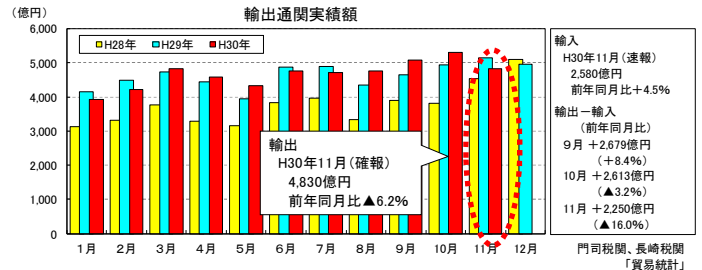
11月の生産指数は、輸送機械工業などが上昇して、2か月連続で前月を上回り、高水準で推移しています。



鉱工業生産指数は、平成22年の生産水準を100として、その変化を表しています。

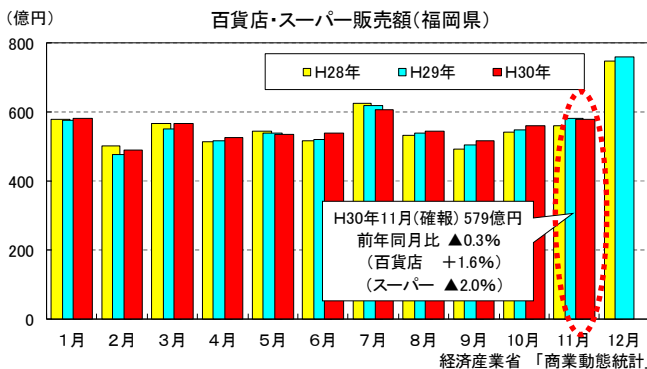
貿易 輸出は高水準で推移、輸入は緩やかに増加

11月の輸出は、北米・西欧向け自動車などの減少により4か月ぶりに前年を下回ったものの、11月単月として過去2番目の高水準となりました。



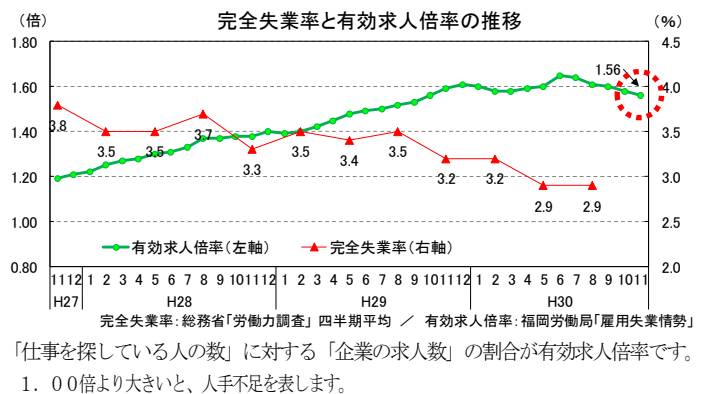
消費 緩やかに増加している

11月の百貨店・スーパー販売額は、暖冬で冬物衣料の動きが鈍かったことなどから、4か月ぶりに前年を下回りました。



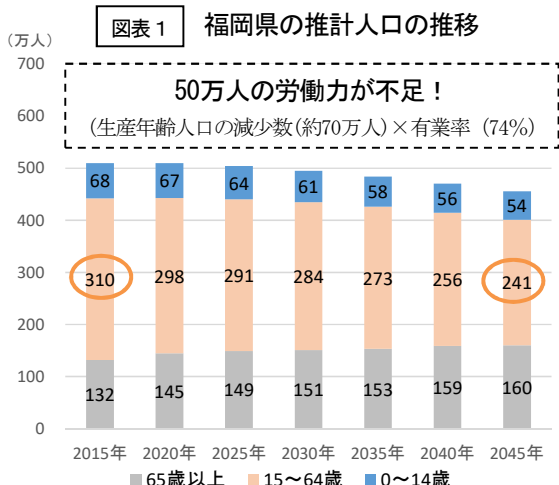
雇用 着実に改善が進んでいる

11月の有効求人倍率は1.56倍と、5か月連続で前月を下回ったものの、高水準で推移しています。



今月のトピック 生産年齢人口の減少による労働力不足への対応 ～カギを握るのは?～

- 日本は人口減少社会を迎えており、生産年齢人口の減少により労働力不足が深刻化していくとみられます。
- 福岡県の2045年時点における生産年齢人口(15~64歳)は241万人と推計され、2015年の310万人から約70万人減少(22.3%減)することとなり、結果として50万人の労働力不足が発生すると懸念されます(図表1)。
- この労働力不足を克服するためには、高齢者、女性、外国人、ロボット・AI等、あらゆる可能性を総動員していく必要があると考えられます(図表2)。



資料) 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別推計人口」

図表2 高齢者、女性、外国人、ロボット・AI等の活用の可能性

対策	検討シナリオ(2015年→2045年にかけて)
高齢者の就労促進	有業率が5%上昇(23%→28%)することで、15万人の就労増
女性の就労促進	男性(81.5%)より低い有業率が10%上昇(66.3%→76.3%)することで、12万人の就労増
外国人の活用	増加する外国人の7割が就労して11万人の就労増 ※外国人の増加率は2007~2017年の平均伸び率を基に推計
ロボット・AI等の活用	現在の有業者数(440万人)のうち、約3%(12万人)を代替すると仮定

注) 各種統計データを基に筆者作成

対策を総動員して労働力不足を克服!!

(トピック担当: 福田)